

10/07 - 10/13

大阪ヘルスケアパビリオン
「リボンチャレンジ」



大阪の町工場が結集して
AIを使った効率的な
未利用魚の活用法を提案

水産加工の自動化に60年以上の実績を誇る専門メーカー

1963年の創業時に日本で初めての魚体処理機を製造開始してから60年以上、水産現場の機械による自動化に携わってきた東洋水産機械株式会社。特に同社が得意としているのは、魚体から骨を取り除いて下ろすフィレーマシンの開発・設計から製造、販売までを一手に担う専門メーカーです。スケソウダラの処理については、世界で2社しかないメーカーの1社になります。魚は種類が多く、必要とされる加工も多岐にわたることから機械設計にも同社の豊富な実績、数多くの経験が優位性につながっています。



出展する「未利用魚の選別機」のイメージ



多くは廃棄される未利用魚

AIを使って未利用魚を選別、活用することに町工場6社で挑戦

大阪・関西万博への出展テーマは、「未利用魚の活用に大阪の町工場が挑戦」です。漁獲されたものの市場に流通しない魚など、さまざまな理由で多くの魚が利用されずに廃棄されるケースもあります。従来は人間の目と手によって選別されていたこれらの未利用魚を、AIを使った自動化で効率よく選別でき、それがある程度まとまった量となれば活用の道が開けるのではないかとという提案です。

この出展では、同社を含めて大阪の中小企業6社がそれぞれの強みとする技術力を持ち寄って、この社会課題の解決に挑戦します。



水産加工機の製造現場

水産加工業におけるAIの可能性を追求するきっかけに

水産加工業者の中には未利用魚を活用したビジネスで成功している企業もありますが、ほとんどの未利用魚は一部の地元でわずかに消費されているほかは、廃棄されているのが現状です。日本の漁獲生産量が減少しているなか、SDGsの観点からも未利用魚の活用が社会課題となっており、多くの学者や企業を悩ませてきました。今回の出展の意義は、そうした社会課題の解決法の一つの提案であるとともに、水産加工業におけるAI活用の可能性を探ることにあります。AIと聞けばハードルが高く感じられますが、大阪の中小企業の知恵を集めて、大企業とは異なるアプローチでAIの活用方法も確立できればと考えています。

企業概要

所在地 〒599-8267
堺市中区八田寺町476-9
TEL 072-273-9351
設立年 1978年（創業は1963年）
資本金 3,000万円
従業員 15名

公式サイト

さかشير



代表取締役
塚越 智頼 さん

大阪の町工場の共同出展で 日本のものづくりを世界にアピール

大阪で事業を行ってきた一企業として、大阪・関西万博が成功して大阪・関西が元気になるために少しでも役立つのならと出展を決めました。さまざまな技術を持っている大阪の中小企業6社での共同出展ということで、日本のものづくりというものを改めて世界にアピールできればと思います。また、今回のご縁を得て、当社の今後の新たな事業展開でも協力していただけそうだと考えており特にAIについては、水産加工業のさまざまなところで活用できれば、若い世代の方々にも魅力ある業界となって活力が生まれるのではないかと期待しています。

事業内容

水産加工機器の製造・販売

主な取引先（納入先）

水産加工会社

主な製品・サービス等

すり身用全自動処理機、サケ・サバサンマなどの各種フィレーマシ